

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ①グリーン・イノベーション・農林水産業分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
レアメタル等リサイクル資源特区 (秋田県)	4	4 進捗度 ・環境・リサイクル関連企業の製造品出荷額 97% ・特区に搬入されたリサイクル対象となる家電等金属系使用済製品(廃基板等の副産物を含む。)の搬入量(国内、アジア地域) 70%	3.5 規制の特例等 ・産業廃棄物管理票(マニフェスト)の送付期限緩和(廃棄物処理法) 地域独自の取組 ・環境調和型産業集積支援事業等	4.3	<p>・あきた企業立地促進事業の採択数は前年度の4件から1件に減少しているが、この原因は何か。秋田県中小企業融資制度の実績がないことと合わせて分析をしてみてもどうか。</p> <p>・「レアメタル等リサイクル戦略推進会議」の開催、廃太陽光パネル及び使用済みリチウムイオンバッテリーへの取組の推進による、更なる発展が期待される。</p> <p>・家電等金属系使用済製品の搬入は、かなり少ない。今後、廃太陽光パネル及び使用済みリチウムイオンバッテリーの発生量の増加が見込まれているとのことだが、希望的な観測か、確実な見込みとなっているか、精査されたい。</p> <p>・金属系使用済み製品の金属リサイクル拠点形成は、意欲的な目標を設定して取り組んでいることが評価される。概ね着実に環境・リサイクル関連企業の出荷額を積み上げてきた中、R4年度が微減となった要因を把握され、今後の対応策に着実に結び付けてほしい。金属系使用済み製品の搬入量指標については意欲的な目標を掲げられているが、目標値と実績値との隔たりも懸念される。今後、着実に拠点形成を進める道筋の検討を期待したい。</p>